

## 2025(R7)シカ年度 知床半島エゾシカ捕獲事業計画

## 捕獲取組一覧

事業主体	地区 [事業No.]	実施時期	捕獲手法	実施場所	実施回数 わな基數	捕獲目標 頭数
<b>【遺産地域】</b>						
環境省	知床岬 〔特4〕 (位置図1)	知床岬地区の取組については議事(2)で取扱い				メス成獣 101頭 ※1
	ルサ-相泊 〔B2〕 (位置図2)	12月～3月	くくりわな獵ほか	アイドマリ川、ルサ川流域、昆布浜周辺ほか (図中①)	15回以上 30基以上	38頭
	幌別-岩尾別 〔B6〕 (位置図3)	12月～3月 ※2	大型仕切柵による 囲いわな式捕獲	岩尾別台地上 (図中①)	3回以上	28頭
		12月～3月 ※2	待ち伏せ式狙撃、 忍び獵ほか	岩尾別川河口付近 ほか(図中②)	8回以上	
		12月～3月 ※2	くくりわな獵ほか	幌別川から岩尾別川 間(図中③)	10回以上 20基以上	
<b>【隣接地域】</b>						
林野庁	春刈古丹 〔C4〕	12月中旬 ～1月下旬 ※3	くくりわな獵	春刈古丹川周辺	21回 26基	20頭
	ウトロ～ 真鯉〔C9〕	1月上旬 ～2月上旬	くくりわな獵	遠音別地区 (オシンコシン周辺)	23回 46基	60頭

※1 捕獲目標頭数、実施時期並びに実施回数については、本WG委員の意見のほか、航空カウント調査結果等も踏まえて適宜見直し。

※2 12月は主に給餌による誘引、1月から捕獲を開始予定。

※3 12月上旬は給餌による誘引、12月中旬から捕獲を開始予定。

## 知床エゾシカB地区の対応方針

ルサー相泊地区

- ・数値目標（エゾシカ発見密度）を達成していたが、増加傾向もみられるため継続的な捕獲を実施。
- ・エゾシカの出現状況、地域の産業活動、希少猛禽類への影響なども踏まえたより適切な捕獲場所、捕獲手法の検討。
- ・今後の捕獲実施に向けた地域調整（隣接地域の意見交換会などの機会も利用）。

幌別-岩尾別地区

- ・継続的な捕獲を実施。
- ・エゾシカの出現状況、公園の利用状況、希少猛禽類への影響なども踏まえたより適切な捕獲場所、捕獲手法の検討。

## 2025(R7) シカ年度 知床半島エゾシカ捕獲事業計画（遺産地域）

### 1. 目的

エゾシカの個体数調整を実施することにより、知床国立公園及び知床世界自然遺産地域（以下、遺産地域という。）におけるエゾシカの過増加による生態系への深刻な悪影響の緩和を図る。

### 2. 実施地区及び実施期間

計画期間：令和7（2025）年6月～令和8（2026）年5月（※6～8月）

実施地区ごとの期間は下表のとおり。

実施地区	実施期間
知床岬地区	令和8年4月～5月（※6～10月）
ルサ-相泊地区（羅臼町）	令和7年12月～令和8年3月
幌別-岩尾別地区（斜里町）	令和7年12月～令和8年3月

※6月以降に捕獲する個体については、翌シカ年度の実施状況として整理を行う。

※シカ年度は6月から翌年5月までの期間をいう。以下、文中「年度」の表記についてはシカ年度を指す。

### 3. 捕獲目標及びエゾシカ生息確認状況

実施地区ごとの捕獲目標頭数は下表のとおり。

実施地区	捕獲目標頭数※1
知床岬地区	メス成獣 101 頭以上 ※1
ルサ-相泊地区	38 頭以上 ※2 (内メス成獣 11 頭以上)
幌別-岩尾別地区	28 頭以上 ※2 (内メス成獣 8 頭以上)

※1 知床岬地区は、直近の航空カウント調査結果における発見頭数のうち、メス成獣の半数以上を捕獲目標頭数として設定。

※2 知床岬地区以外の2地区は、直近の航空カウント調査結果における発見頭数（雌雄合計）から一般的な自然増加率（年当たり 21%）分を算出し、雌雄合計として捕獲目標頭数を設定。この内メス成獣については、過去の捕獲実績より上記目標頭数の約 3 割程度を目標頭数として設定。

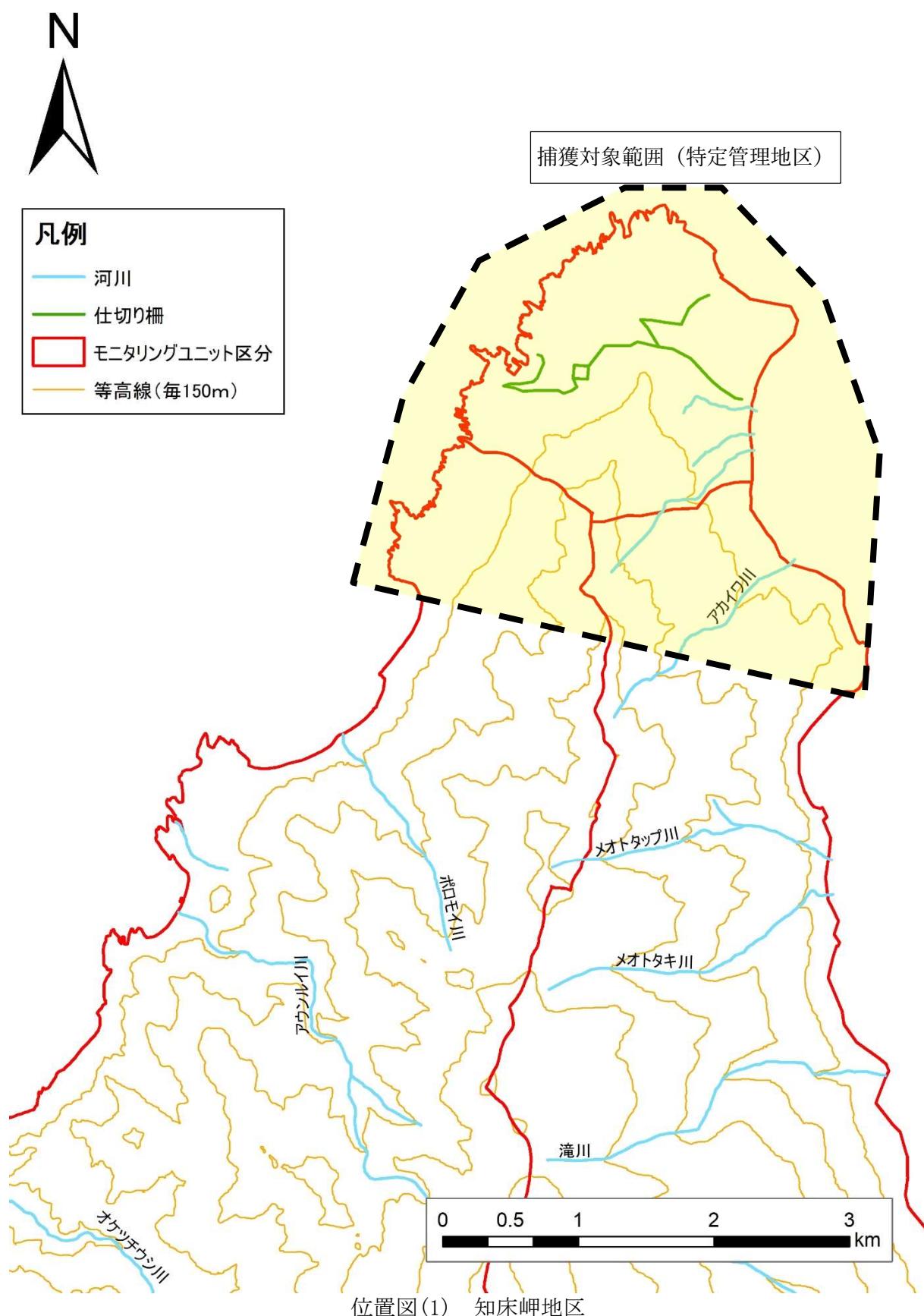
なお、実施地区ごとの目標密度等の状況は下表のとおり。

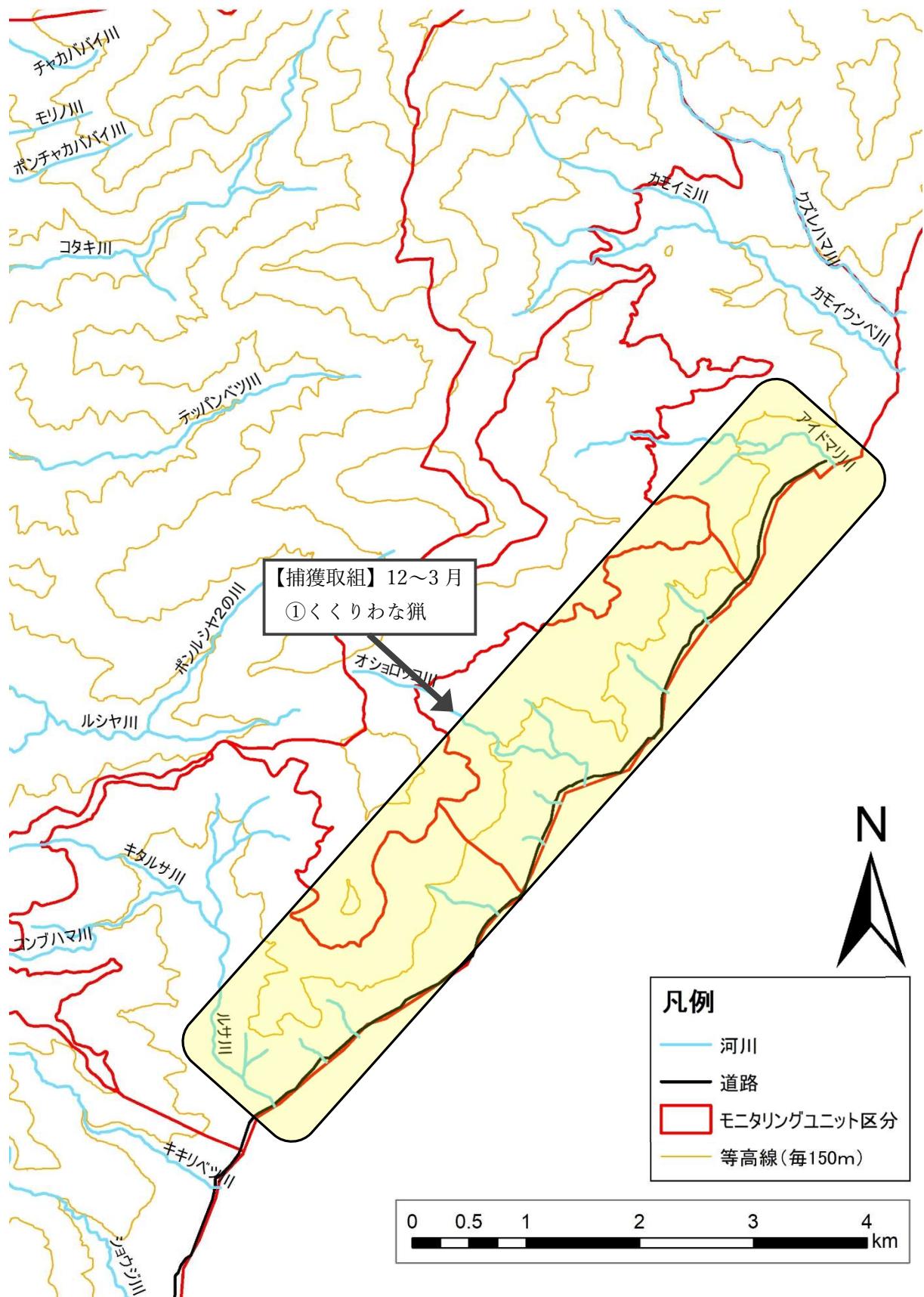
実施地区	第4期 目標密度	発見頭数※1	発見密度※1	
		2024 年度	2024 年度	第3期最終年 (2021 年度)
知床岬地区	10 頭/km <sup>2</sup>	426 頭※2 内メス成獣 203 頭	145.51 頭/km <sup>2</sup>	78.64 頭/km <sup>2</sup>
ルサ-相泊地区	5 頭/km <sup>2</sup>	183 頭	7.41 頭/km <sup>2</sup>	3.97 頭/km <sup>2</sup>
幌別-岩尾別地区	5 頭/km <sup>2</sup>	134 頭	4.61 頭/km <sup>2</sup>	10.28 頭/km <sup>2</sup>

※1 発見頭数及び密度については、過年度のエゾシカ航空カウント結果を基に算出・掲載。

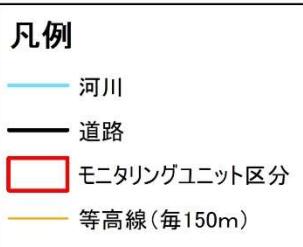
※2 知床岬地区的発見頭数は別途実施した詳細（旋回撮影）調査結果を掲載。

## 4. 捕獲等取組予定位置図





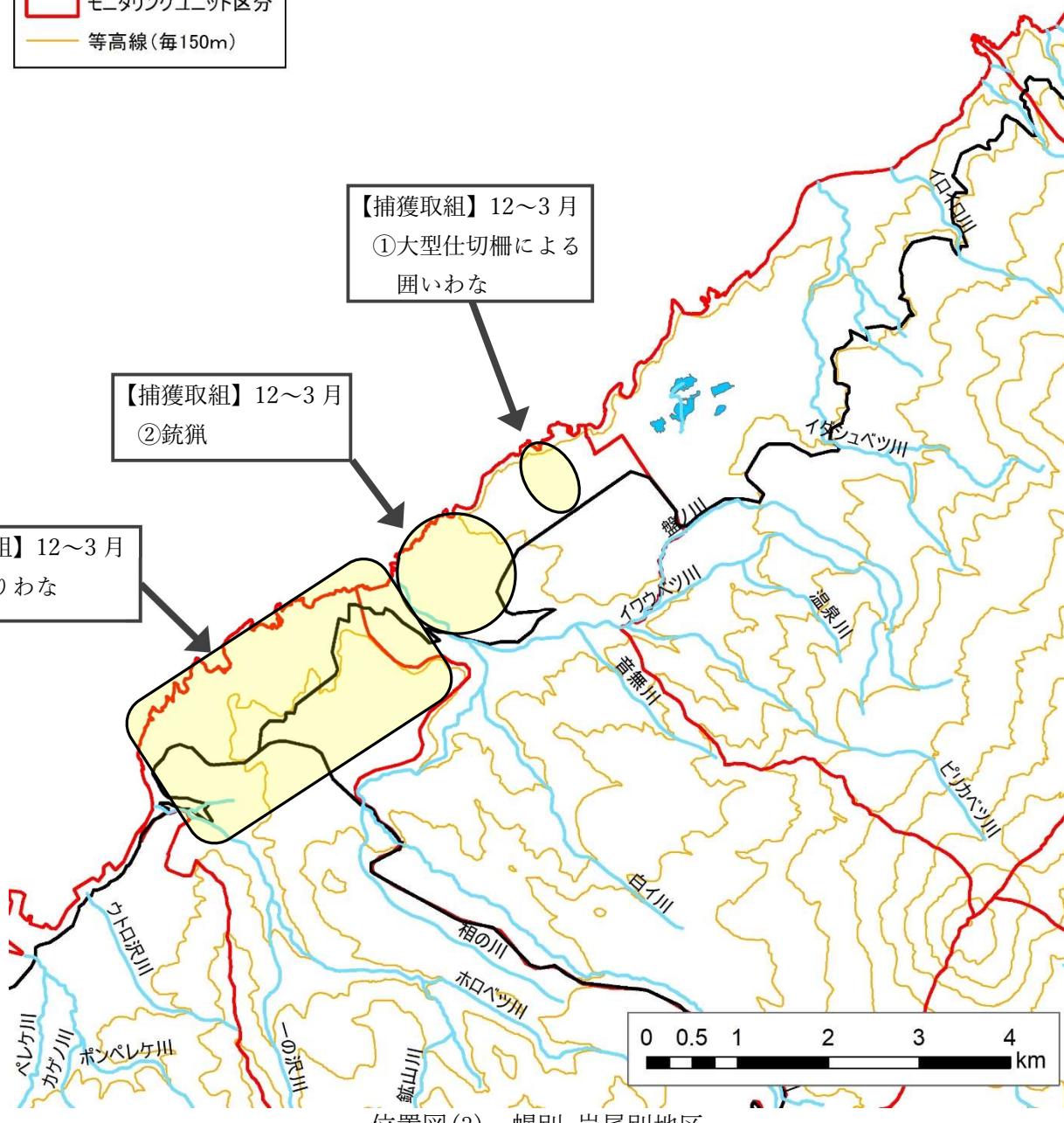
位置図(2) ルサ-相泊地区



【捕獲取組】12～3月  
①大型仕切柵による  
囲いわな

【捕獲取組】12～3月  
②銃猟

【捕獲取組】12～3月  
③くくりわな



位置図(3) 幌別-岩尾別地区

## 2025 (R7) シカ年度 エゾシカ捕獲事業計画（隣接地域）

### 1) 目的

エゾシカの季節的な移動や分散を考慮すると、遺産地域に影響を与えるエゾシカ個体群の範囲は知床半島基部にまで及ぶ。2025 (R7) シカ年度エゾシカ捕獲事業では、第4期知床半島エゾシカ管理計画に基づき、エゾシカの採食圧を軽減することにより、生物多様性を保全するとともに、地域住民とエゾシカの軋轢緩和を図る。

### 2) 経緯と方針

#### <経緯>

- 北海道森林管理局では、2010 (H22) 年度から春苅古丹地区で捕獲事業を開始。2013 (H25) 年度から遺産地域に隣接する宇登呂地区での捕獲事業を開始。2014 (H26) 年度から遠音別地区、真鯉地区において捕獲事業を開始。
- わなによる捕獲は、囲いわな、箱わなに加え、2018 (H30) 年度からくくりわなによる捕獲を実施。
- 囲いわなでの捕獲数が年々減少した理由として、警戒心の増加、局所的な生息数の減少が原因として考えられる。
- 地形条件等により囲いわな設置が難しい箇所においては、銃を用いた捕獲を H26 年度から実施。なお、捕獲可能な場所が限られることもあり、捕獲頭数は年々減少したため、R2 年度以降は銃猟を休止するとともに、くくりわな主体に捕獲を実施。

#### <方針>

- くくりわなにおいて安定して頭数が捕獲されていることから、2025 (R7) シカ年度の捕獲方法はくくりわなとする。
- 一般狩猟が可能な区域は基本的に除外し、鳥獣保護区等で狩猟による捕獲が見込めない区域を事業対象とする。具体的には、オシンコシン地区及び春苅古丹地区において、くくりわなによる捕獲を行う。
- 捕獲目標は過去の捕獲頭数及び航空カウントによる密度、地域からの意見等を考慮し設定。
- 事業にあたっては希少野生生物に配慮するため、有識者より助言を受けて実施する。

### 3) 捕獲事業内容案

<全体>目標 80 頭（うち斜里町側 60 頭、羅臼町側 20 頭）

- ・くくりわな（1月上旬～2月上旬に捕獲を実施）

3-1) 遠音別地区 捕獲目標頭数：60 頭

- ・くくりわな（オシンコシン周辺）

3-2) 春苅古丹地区 捕獲目標頭数：20 頭

（12月上旬給餌・誘引開始、12月中旬～1月下旬捕獲実施）

- ・くくりわな（春苅古丹林道周辺）

## 隣接地域既設わな位置図

